

14.21

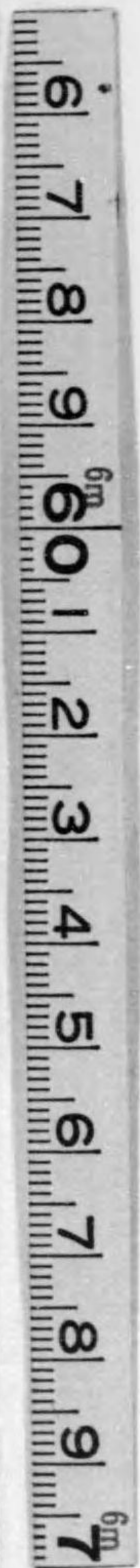
349

# 事績報告

第十回

愛媛縣原蠶種製造所

# 始





142-349

# 事績報告 第十回

## 第一 原蠶種製造並に配付

### 一 原蠶種製造

本年度製造したる原蠶種は春蠶五品種、秋蠶五品種外に交雜原種一組合とす、種繭量は春蠶九石四斗九升八合、秋蠶拾石、合計拾九石四斗九升八合にして製種蛾数は春蠶參萬九千〇貳拾五蛾、秋蠶四萬貳拾拾蛾、合計八萬壹千四百四拾五蛾とす、即ち左表の如し。

計	品 種 名	系 統	繭 色	掃立 蛾 數	所 要 繭		計 量	原 蠶 種 製 造 額		病 步 合
					種 繭	其 他		合 格	其 他	
一	國蠶日一號	日本種	白	三八八	二七四八	三三八八	六二二六	一五、二三	七〇	〇・四六
一	國蠶支四號	支那種	白	三六〇	三三〇〇	二四七一	六二七一	一二、四七	一五	〇・三二
一	國蠶支七號	支那種	金黃	九六	七九〇	六三九	一四二九	四、二七	四	〇・〇九
一	國蠶支十一號	支那種	白	一三〇	一四四〇	八九五	二〇三五	四、〇七	三	〇・〇七
一	國蠶歐七號	歐羅巴種	黃	一六〇	一三〇〇	一、四四〇	二五六〇	三、一〇	九	〇・二八
五	種	日支歐	白、黃、金黃	一、二四	九四九八	八八三	一八三二	三八、九四	一〇一	〇・二五

大正十一年四月  
11. 4.  
内交

### 緒 言

本編ハ大正十年年度ニ於ケル事績ノ概  
要ヲ輯録シタルモノトス

大正十一年四月

愛媛縣原蠶種製造所



秋 蠶

化性	品 種 名	系 統	繭 色	掃立 蛾 數	所 要 繭 量		原 蠶 種 製 造 額		病 毒 步 合
					種 繭	其 他	合 格	其 他	
一	國蠶日一號	日本種	白	二〇〇	二〇〇〇	七七一	七	七七一	〇・〇九
二	國蠶日一〇六號	日本種	白	二二九	二〇〇〇	二六〇	四八	一〇六五二	〇・三五
二	國蠶日一〇七號	日本種	白	一〇五	一〇〇〇	二〇五	二五	五九一九	〇・三〇
一	國蠶支九號	支那種	白	三三五	二九〇〇	一四八九	三	五八三六	〇・〇五
二	國蠶支一〇一號	支那種	白	一八六	二〇〇〇	二二七	二七	四三四二	〇・三九
二	交雜國蠶支一〇九號	支支交雜種	白	—	—	—	—	—	—
二	交雜國蠶支一〇一號	支支交雜種	白	—	—	—	—	—	—
計	外ニ交雜一組合種	支支交雜種	白	一〇七五	一〇〇〇〇	二八五八	三三	四二四二〇	〇・二四

備考 一、交雜國蠶支一〇九號は其の交互雜種も便宜上共に擧げ、其の病毒歩合のみを別に示せり。

二 原蠶種配付

原蠶種配付請求蛾數は春蠶貳萬八千四百七拾七蛾、秋蠶四萬壹千貳百參拾七蛾、合計六萬九千七百拾四蛾にして大正十一年三月三十一日までに配付したる蛾數は、春蠶貳萬八千參百貳拾七蛾、秋蠶參萬參千五百七拾參蛾、合計六萬壹千九百蛾とす、而して配付したる蠶種製造者實數五拾六名なり、即ち左表の如し。

春 蠶

品 種 名	組 合 セ 品 種 名	請 求 蛾 數	配 付 蛾 數	請 求 人 員	配 付 人 員
國蠶日一號	國蠶支四號	一三、八六八	一三、八六八	四	四
國蠶支四號	又ハ國蠶支十二號	八、七六八	八、七六八	四	四
國蠶支七號	國蠶日一號	八〇六	八〇六	六	六
國蠶支十一號	國蠶日一號	三、七六一	三、七六一	三	三
國蠶支七號	國蠶日一號	一、二七四	一、二七四	二	二
國蠶支七號	國蠶支七號	二八、四七七	二八、四七七	五	五
計					

秋 蠶

品 種 名	組 合 セ 品 種 名	請 求 蛾 數	配 付 蛾 數	請 求 人 員	配 付 人 員
國蠶日一號	國蠶日一〇六號	二、八九三	二、八九三	三	三
國蠶日一〇六號	又ハ國蠶支九號	一、二六二	一、〇一〇	四	四
國蠶日一〇七號	國蠶支九號	七、二四九	五、六六六	三	三
國蠶支九號	國蠶日一〇六號	三、七九五	三、七九五	四	四
國蠶支一〇一號	又ハ國蠶日一〇七號	七、五六〇	四、二一〇	四	四
國蠶支九號	國蠶支九號	八、二二〇	七、〇九〇	三	三
交雜國蠶支九號	國蠶支九號の飼育困難なる地方に於て其の代用品として用ふ				
交雜國蠶支三號					



計	41,377	3,573	52
實數			
實數			

配付數量を品種別により、郡市別にて示せば左の如し。但し宇摩郡、周桑郡、越智郡、南宇和郡、松山市及今治市には配付數量なし。

郡市名	春 蠶						計
	國蠶日一號	國蠶支四號	國蠶支七號	國蠶支十二號	國蠶歐七號	計	
溫泉郡	250	200	140	280	140	1,100	450
新居郡	330	330	140	390	200	1,490	1,100
上浮穴郡	1,075	808	568	390	200	2,051	2,122
喜多郡	467	3,499	568	1,456	856	6,846	10,966
西宇和郡	1,900	1,302	272	667	208	4,349	3,474
東宇和郡	3,497	1,327	667	597	208	6,300	5,767
北宇和郡及宇和島市	2,239	1,303	597	1,070	200	5,429	4,058
愛媛縣立西條農業學校	60	60	60	30	30	180	180
計	13,868	8,768	806	3,611	1,274	28,337	28,337

郡市名	秋 蠶						計
	日一號	日二號	日七號	支九號	支二一號	交雜國蠶支九號	
溫泉郡	1	100	50	80	1	150	480
計	2,892	10,010	5,666	3,795	4,110	7,090	33,573

## 第二 試驗竝に調査

本年度は於ける試験竝に調査項目左の如し。

### 一 養蠶に關するもの

- 一 品種に關する試験 優良と認むる品種につき其の特性を比較調査し、繭質改良整理の資に供せむとす  
本項は特に秋蠶に重きを置き試験す。
- 二 雜種に關する試験 各種の交雜を行ひ優良なる基礎原種組合を得るの資に供し又は優良なる新品種を撰出せむとす。
- 三 蠶種製造に關する試験 種繭竝に蠶種の保護、冷蔵生種の低溫催青、人工孵化法等に關し實用上の良

郡市名	新居郡	上浮穴郡	喜多郡	西宇和郡	東宇和郡	北宇和郡及宇和島市	愛媛縣立西條農業學校	計
日一號	168	40	144	128	326	496	1	2,892
日二號	790	1,100	2,089	1,044	1,846	2,921	60	10,010
日七號	200	878	1,091	921	1,180	1,226	30	5,666
支九號	56	1,096	1,256	360	591	296	60	3,795
支二一號	192	445	692	658	872	1,102	60	4,110
交雜國蠶支九號	250	780	1,260	1,370	2,070	1,090	110	7,090
計	1,655	4,619	7,852	4,531	6,795	7,331	330	33,573



- 法を發見せむとす。
- 四 蠶兒飼育に關する試験 蠶兒の發育に要する積算溫度の調査、並に全芽育、條桑育、一化性の夏期飼育等に關し各種方法の實用的價值に關し試験す。
- 五 微粒子病に關する試験 桑の品種、野外昆蟲との關係、及病毒豫知検査法等に關し試験を行ひ蠶病豫防上の參考に資せむとす。
- 六 硬化病に關する試験 溫濕度と本病との關係、及蠶兒飼育法と本病との關係等を試験し本病の豫防法を闡明にせむとす。

二 桑園に關するもの

- 一 品種に關する試験 見本園中優良と認むるものにつき各品質の特性を比較調査し優良種の撰出に資せむとす。
- 二 仕立法に關する試験 栽植の疎密、刈り方の高低、改植の方法、收葉時期等に關し實用上の適度を知らむとす。
- 三 病蟲害に關する試験 各種の病蟲害につき試験し豫防並に驅除の方法を闡明にせむとす。
- 四 間作に關する試験 桑園の各種間作につき經濟上並に桑樹に及ぼす影響につき知らむとす。

第三講 習

一 第五回蠶業講習

第五回蠶業講習生は、大正九年十二月入所試験の成績により二十名を選抜入所せしめ、大正十年一月十日

より講習を開始し、同年十二月十八日終了したり、學科、實習等の實地並に修得證書を授與したる者の氏名左の如し。

學科

科 目	擔 任	第一期(自一月至三月)	第二期(自四月至九月)	第三期(自十月至三月)	計
蠶業汎論	小曾戸師	九	三	二六	三八
桑樹栽培法	近藤田技師	二八	四	三三	六五
養蠶法	宇都宮助	三五	五	三八	七八
蠶種製造法	菊地囃	二五	二	二三	六〇
製絲法	大須賀講	一九	一	二〇	二〇
顯微鏡使用法	兵頭技師	三	一	一	一九
蠶體解剖生理	松井頭技師	三一	三	二八	六二
蠶體病理及消毒	兵頭技師	二	九	三六	四七
遺傳學	小曾戸技師	三	三	二七	四三
土壤及肥料學	近藤技師	七	五	一六	三八
氣象學	關本技師	二	一	一七	二九
法規	西辻村講師	一	一	一九	一九



課	農業	經濟學	東	講	師			
計			二〇一	一〇一		四四	三〇〇	一七〇
						四四	三〇〇	一七〇
							五四五	一七〇

項	目	第一學期(自一月至三月)	第二學期(自四月至九月)	第三學期(自十月至十二月)	計
終	日	三	一五二	一	一五六
一時間	乃至四時間	三五	一五	三三	八二
計		三八	一六七	三三	二三八

月	日	日	數	視	察	見	學	方	面
五月	九日		一	喜多郡	菅田村				
自七月	十五日		一〇	橫濱、東京、松本、名古屋					
至七月	十四日								

第五回修得生氏名 (イロハ順)  
 宇摩郡金生村 井原 照右衛門 北宇和郡明治村 伊藤喜十郎  
 東宇和郡高山村 花田 斧一 喜多郡柴村 西宮筆雄

北宇和郡喜佐方村	土居丈太郎	溫泉郡西中島村	吉田信一
北宇和郡泉村	谷口美雄	越智郡小西村	高橋稔
東宇和郡土居村	高橋操	東宇和郡宇和町	田中豐
伊豫郡南伊豫村	坪内桂	東宇和郡多田村	中原敏晴
東宇和郡俵津村	宇都宮初次	溫泉郡新濱村	藤原殖貞
喜多郡大成村	龜甲六三郎	北宇和郡三浦村	水野素直
上浮穴郡菅生村	清水信市	喜多郡大洲村	平井猪鹿獅
越智郡小西村	×片岡忠朝		

備考 ×印は研究生として入所し蠶業講習規程の各科目を修得したるものとす。

二 第六回蠶業講習

本年度入所を許可したる講習生左の如し、第一種蠶業講習生並に研究生に對しては大正十一年一月十日より講習を開始せり。

第一種蠶業講習生 (イロハ順)

上浮穴郡父二峯村	和泉好雄	西宇和郡双岩村	井上重一
南宇和郡御莊村	新田萬祐	東宇和郡多田村	河野宗義
上浮穴郡父二峯村	片岡頼太郎	西宇和郡千丈村	柏木武雄
北宇和郡愛治村	片上清則	上浮穴郡川頼村	八塚正之
西宇和郡伊方村	上田庄松	溫泉郡興居島村	山本寅次郎
喜多郡大川村	山首秀雄	東宇和郡多田村	菊地重盛



越智郡九和村 山本利孝 温泉郡小野村 重信芳且  
 東宇和郡多田村 宮崎幸雄 喜多郡御拔村 ×三原森太郎  
 備考 ×印は研究生として入所し蠶業講習規程の各科目を修めんとするものとす。  
 第二種蠶業講習生 (イロハ順)  
 北宇和郡奥南村 若藤富吉 東宇和郡山田村 河野元三郎  
 東宇和郡俵津村 中村魯平 東宇和郡多田村 松岡虎雄  
 東宇和郡笠置村 菊地四郎

第四 雜 件

一 所員の出張

管内	管外	其他	回数	日数
視察及調査	視察及調査	其他	一〇	二〇
所外飼育	講習講話並に實地指導		一六	六三
講習講話並に實地指導	講習講話並に實地指導		一	五六
講習講話並に實地指導	講習講話並に實地指導		四	四二
講習講話並に實地指導	講習講話並に實地指導		一	一
講習講話並に實地指導	講習講話並に實地指導		五	四
講習講話並に實地指導	講習講話並に實地指導		一	二六
講習講話並に實地指導	講習講話並に實地指導		七	二六

管内	管外	其他	回数	日数
講習講話並に實地指導	講習講話並に實地指導	其他	三	三三
講習講話並に實地指導	講習講話並に實地指導	其他	一	二
講習講話並に實地指導	講習講話並に實地指導	其他	九	一〇
講習講話並に實地指導	講習講話並に實地指導	其他	一	六
講習講話並に實地指導	講習講話並に實地指導	其他	八	六四
講習講話並に實地指導	講習講話並に實地指導	其他	三	三〇
講習講話並に實地指導	講習講話並に實地指導	其他	六	三〇

二 印刷物配付

愛媛縣原蠶種製造所報告 第六號 七百部  
 事績報告 第九回 貳千部  
 本縣の養蠶者は如何なる蠶種を飼育すべきか 五千部  
 大正十年春蠶作柄に關する調査 壹千部  
 愛媛縣原蠶種製造所蠶業講習一覽 參百部  
 蠶の白殭病と其の豫防に就て 五百部  
 久萬桑園一覽 五百部  
 蠶ノ卒倒狀軟化病(俗稱類似卒倒病)ニ就テ 五百部



大正十年夏秋蠶作柄ニ關スル調査  
愛媛縣原蠶種製造所一覽  
蠶ノ軟化病ノ細菌學的檢索  
大正十年原蠶種配付數量一覽

五拾部  
八百部  
五拾部  
五拾部

一三

### 三 文書の收發竝に圖書の收受

(大正十年一月一日より同年十二月三十一日に至る一ケ年間)

文書收發件數  
圖書收受件數

九百拾貳件  
壹千七百〇貳件

### 四 參觀人員

壹千六百五拾壹名

### 五 氣象觀測

本所は本縣松山測候所の氣象觀測所として構内に觀測設備を有し毎日午前十時氣溫、風、雲、降水量の觀測を行へり。

### 六 規程改正

大正十一年三月愛媛縣告示第六六號を以て大正五年十二月愛媛縣告示第六百二十號愛媛縣原蠶種製造所蠶業講習規程の一部改正せらる改正規程左の如し。

#### 愛媛縣原蠶種製造所蠶業講習規程

大正五年十二月 愛媛縣告示第六百二十號  
大正七年二月 愛媛縣告示第五十三號改正  
大正十一年三月 愛媛縣告示第六六號改正

- 第一條 原蠶種製造所ハ本規程ニ依リ蠶絲業ニ關スル學理及實務ノ講習ヲ行フ
  - 第二條 講習生ノ定員ハ貳拾名トス但シ時宜ニ依リ増減スルコトアルヘシ
  - 第三條 講習生ヲ分チテ第一種第二種ノ二トス
  - 第四條 講習期間左ノ如シ  
第一種講習生 一月ヨリ十二月ニ至ル一箇年  
第二種講習生 四月ヨリ十二月ニ至ル九箇月
  - 第五條 講習科目左ノ如シ
    - 一 蠶業汎論
    - 二 桑樹栽培法及其ノ實習
    - 三 養蠶法及其ノ實習
    - 四 蠶種製造法及其ノ實習
    - 五 製絲法及屑物整理殺蛹乾繭實習
    - 六 蠶體解剖生理及其ノ實驗
    - 七 蠶體病理消毒及其ノ實驗並ニ蠶種檢査實習
    - 八 實驗遺傳學及蠶ノ品種改良
    - 九 蠶絲業ニ關スル法規
    - 十 町村行政大意
    - 十一 農業、産業組合
    - 十二 教育
- 第一種講習生ニハ前項ノ外左ノ科目ヲ課ス
- 一 顯微鏡使用



二 昆蟲學、微生物學  
三 土壤學、肥料學  
四 氣象學

第六條 全課程を終了シタルモノニハ第一號様式ノ修得證書ヲ授與ス

第七條 入所志願者ハ品行方正身體健全且ツ左ノ資格ノ一ニ該當スル者タルヘシ

第一種講習生 滿十八年以上ノ男子ニシテ尋常小學校卒業ヲ入學程度トセル修業年限三箇年以上ノ農業學校ヲ卒業シタル者ニシテ當該學校長ノ推薦ニ係ルモノ若クハ修業年限二箇年以上ノ高等小學校ヲ卒業シ二箇年以上養蠶ニ從事シタル者

第二種講習生 高等小學校卒業ヲ入學程度トセル修業年限三箇年以上ノ農業學校卒業者若クハ入所期日マテニ卒業ノ見込ノモノニシテ當該學校長ノ推薦ニ係ル者

第八條 入所志願者ハ第二號様式入所願書ニ履歷書及第一種講習生ニアリテハ戶籍抄本農業學校卒業者ニアリテハ當該學校長ノ推薦書ヲ添附シ郡市役所ヲ經テ第一種講習生ニアリテハ十二月十日迄ニ第二種講習生ニアリテハ三月十日迄ニ所長ニ差出スヘシ

第九條 講習生入所ノ許可ハ農業學校卒業者ニアリテハ詮衡ノ上其ノ他ノ者ニアリテハ左記科目ニ就キ試験ノ上所長之ヲ定ム  
算術、作文、理科、養蠶

第十條 入所ノ許可ヲ得タルモノハ第三號様式ノ誓約書ヲ差出スヘシ

保證人ハ獨立ノ生計ヲ營ム滿二十五年以上ノ男子ニシテ本人ニ關スル一切ノ責任ヲ負フニ足ルヘキ者タルヲ要ス

第十一條 講習生ハ所内ニ寄宿セシム但シ本所ノ都合ニヨリ通學ヲ命スルコトアルヘシ

第十二條 講習生ニハ四月ヨリ九月マテ六箇月間手當ヲ支給ス

第十三條 退所セントスル者ハ事由ヲ具シ保證人連署ノ上所長ニ願出ツヘシ

第十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ退所ヲ命ス  
一 性行不良若クハ身體虛弱ニシテ成業ノ見込ナキ者

二 學術劣等ニシテ成業ノ見込ナキ者  
三 正當ノ事由ナクシテ引續キ一箇月以上缺席シタル者又ハ出席常ナラサル者

第十五條 前二條ノ場合ニ於テハ既に支給シタル手當金ノ全部又ハ一部ノ返納ヲ命スルコトアルヘシ

附 則

第十六條 本規程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十七條 大正六年一月入所スヘキ者ニ限リ第八條ノ入所願書差出期日ハ大正六年一月十日迄トス

第一號様式

修得證書

原籍

氏

生年月日

名

右本所所定ノ何種講習課程ヲ修得セシコトヲ證ス

年 月 日

愛媛縣原蠶種製造所長 氏

名印

第二號様式

入所願書

原籍

氏

生年月日

名

現住所

氏

生年月日

名

右貴所入所志願ニ付御許可相成度履歷書戶籍抄本(學校長推薦書)相添へ此段相願候也

年 月 日

愛媛縣原蠶種製造所長 氏

名 殿

氏

名印

(受 驗 地)



收入  
印紙

誓約書

某儀今般貴所へ入所許可相成候ニ就テハ御規則等固ク相守リ可申且在所中某儀ニ係ル事件ハ保證人ニ於テ一切引受可申候  
依テ連署ノ上本證書差出置候也

年 月 日

原籍

氏

生年月日

現住籍

講習生トノ關係  
保證人 氏

生年月日

愛媛縣原蠶種製造所長 氏

名 殿

### 七 創立拾週年記念式

本所の創立は明治四十五年五月にして、大正十年度は正に創立拾週年に當るを以て、大正十一年二月十一日記念式を舉行せり。本縣知事並に蠶業試驗場綾部支場長は各代理官を派遣せられ、縣下蠶絲業者並に地方有志の參列せらるゝ者參百六拾八名に達せり。式の次第左の如し。

- 一、擧式の挨拶 (松井技手)
- 一、所長式辭

- 一、知事告辭 (辻本理事官代讀)

- 一、祝辭並ニ演說

(蠶業試驗場綾部支場長代理秋山同場技手 喜多郡長 佐藤大洲區裁判所判事 龜岡本縣農會長  
今川大洲村會議員 蠶絲業者代表者河野駒次郎氏 松井仙重朗氏 本所蠶業講習修得者總代菊地辰)

- 一、祝辭祝電披露 (祝辭二、祝電九)

- 一、閉會の挨拶 (小曾戶所長)

式後、蠶業に關する活動寫眞を行ひ、大洲村並に原蠶種製造所講友會は茶菓の饗應をなせり。  
知事の告辭を左に掲ぐ

### 告辭

愛媛縣原蠶種製造所創立以來方二十年茲ニ記念ノ式ヲ舉クルニ當リ一言スル所アラントス  
願フニ蠶絲業ノ進歩發達ヲ圖ルノ途多々アリト雖モ就中蠶ノ優良品種ノ普及ヲ促進セシムルハ其ノ根幹ヲナスモノニシテ斯業ノ獎勵上極メテ緊切ナル事項トナス本所ハ實ニ此ノ趣旨ニ基キ明治四十五年始メテ設置セラレ爾來主トシテ原蠶種ノ製造配付ニ從事シ終始一貫シテ今日ニ及ヒ本縣斯業ノ改善ニ貢獻セシ處頗ル多ク當業者ノ自覺ト相俟テ其ノ效績顯著ナルモノアリ加フルニ大正六年以降蠶業講習ヲ開始シ既ニ修得生ヲ出スコト八十七名ニ達シ何レモ斯業界ノ中樞人物トシテ直接間接當業者ノ指導誘掖ニ當リ其ノ實蹟ノ偉大ナルコト此ニ贅言ヲ要セサルナリ今ヤ國ヲ舉ケテ民力ノ増進ト國富ノ充實トニ力ヲ注クヘキ緊要ナル機運ニ會シ本邦主要物産タル蠶絲ノ改良増加ヲ要望スルコト愈々切實ナルニ鑑ミ本所ノ前途ニ期待スルトコロ亦至大ナリトス此ノ秋ニ當リ盛大ナル記念ノ式典ヲ舉ケテ創立ノ當時ヲ顧ヒ將來ノ發展ヲ講スルハ實ニ慶賀ニ堪ヘサル所ニシテ宜シク局ニアル者ハ一層ノ熱誠努力ヲ以テ事ニ當リ講習生ハ能ク其ノ德操ヲ修メ研鑽ヲ勵ミ當業者諸氏亦克ク之ヲ活用シテ和衷協同以テ當初ノ目的ヲ完フセラレムコトヲ望ム



1421  
349

一言以テ告辭トス  
大正十一年二月十一日

愛媛縣知事正五位勳四等 宮崎通之助

一八

大正十一年四月二十日印刷  
大正十一年四月廿五日發行

### 愛媛縣原蠶種製造所

印刷人 岐阜縣岐阜市明德町十七番地 矢島仲次郎

印刷所 岐阜縣岐阜市美江寺町五十八番地 岐阜監獄



終

愛媛縣の蠶絲業

大正十年の統計

桑園反別	八、六九四町
養蠶戸數	三八、九三五戸
掃立枚數	一〇三、七三九枚
繭産額	一五四、一五六石
蠶種製造者數	六九名
蠶種製造額	二〇、八二一、七八四蛾
器械製絲工場	一二八所
生絲産額	一六一、三七四貫